

中山観光・季節の話題・旅便い

1月

号

明けましておめでとうございます。

去年は中山観光自動車をご利用頂きありがとうございました。

今年も中山観光トラベルサービス共々よろしくお願い致します。



2025年は大阪国際博覧会が開催されるのでどんな年になるのか、今から楽しみです

今年も季節の話題やおすすめの観光情報を中心に自社ツアー情報・仕事の様子や社内行事など月ごとにお届けしてまいります。

皆様にとってより良い1年になりますように





お正月はどのように過ごされたでしょうか。実家に帰省されてのんびりされた方、旅行に出かけた方、初売り巡りで疲れた方…今年は晴天に恵まれ穏やかなお正月でしたね。

子どもの頃は、大掃除やテレビの特番、松飾りやお重のおせち、年賀状など年末からお正月にかけての様々な行事が特別な出来事として、わくわくドキドキしたものです。大人になるとその新鮮な気持ちが少しずつ失われていくことに気付かれます。わくわくドキドキがあってこそ、気持ちを新たにできることを忘れてはいけませんね
運を開く習わしの数々で幸先の良いスタートを…(^▽^)/



1月7日は七草粥(人日の節句)七草入りのお粥で元気をチャージする日



お正月からのごちそうつづきで疲れぎみの心身を春の若菜が癒します。

この七草をおかゆにして1月7日に食べる七草がゆの習慣は、江戸時代に広まったそうです。

七草は、早春にいち早く芽吹くことから邪気を払うといわれました。

そこで、無病息災を祈って七草粥を食べることに…

古くはまな板の上で、草をトントン叩いて刻むその回数も決められていたとか。

七草はいわば日本のハーブ、そのハーブを胃腸に負担がかからないおかゆで食べようというのですから、正月疲れが出はじめた胃腸の回復にはちょうどよい食べ物ですね。

1月11日は鏡開き 神様へのお供えをお下がりいただく日

神様の力が宿った鏡餅をいただいて健康と繁栄を願いましょう

鏡開はお正月のあいだ飾っておいた鏡餅を下げて、お雑煮やおしるこにして食べる行事。

最近は鏡餅を飾らないご家庭も増え、鏡開きを知らない方もいるかもしれませんね。

鏡餅には年神様の魂が宿っているので、食べてその力を授かり、1年の無病息災を願います。

鏡餅を食べるのは松の内が過ぎた後。多くの地域では松の内が7日までとなっており、

11日に鏡開きを行います。昔は全国的に松の内は15日までで、鏡開きは20日に行われていましたが、徳川幕府 3 代将軍の家光が4月20日に亡くなったことを受け、月命日の20日は避けるようになって、代わりに 11 日に鏡開きを行うことになり、それに伴って松の内の期間も今のように 7 日までに変更になったといわれます。

ただ、江戸幕府から離れていた近畿では、この風習は広まらず、松の内は15日のまま。

鏡開きも15日や 20 日に行われているようです。

お正月といえばお餅。お餅って可愛らしい名前だと思いませんか？

この呼び名は諸説ありますが、満月の別名、望月から来ているそうです。

1 年には多くの節目があり、そのたびお餅が登場します。特にお正月は鏡餅にはじまり、お雑煮に焼き餅に…と白米よりむしろお餅、というくらい食べますよね。あるいは桃の節句は菱餅や桜餅、

端午の節句は柏餅、秋になると十五夜の時に飾る月見団子、そしてお祝い事に食べるお赤飯。

ここに共通するのは「もち米」です。お餅の歴史は古く、縄文時代から食べられていたそう。

この頃から日本では稲作が始まっており、お餅になりやすい性質のお米を食べていたそうです。

お餅が縁起物とされ、節目ごとに食べられるようになったのは弥生時代以降。稲には「稲霊」が宿り、

お米には特別な力があるとされる「稲作信仰」がありました。さらにお米を固めたお餅には

より強い力があるとされ、神聖な食べ物として“ハレの日”に食べるようになったとか。

やはり日本人の文化の中には古来からお米、そしてお餅が深く根付いているということですね。

1月7日は爪切りの日って知ってた？

1月7日は、爪切りの日です。その由来は、新年で初めて爪を切る日は「七草爪」と言われ、

春の七草を浸した水、または七草をゆでた汁に爪につけて、爪を柔らかくしてから爪を切ると、その年は一年間病気にかからないと言われているからです。

1月7日の爪切りの日は、他にも「七日爪」とも呼ばれ、昔から年が明けて初めて爪を切る日になっています。

また新年の七草爪をしたら、その後は一年中、爪切りをしても良いとされています。

鏡開きで大事なのは、餅を切るのではなく、割って開くことです。

年神さまとの縁が切れないように、また、武士の時代に切ることを嫌ったいわれがあり、刃物では切らずに、小槌や木槌で割ります。

小さくした餅は、おしるこにして食べましょう。

神さまが宿っていた餅にあやかり、1年の健康を願います。

また、小豆の赤色には、魔除けや邪気払いの意味があります





2025 年の干支は、巳

「巳」はヘビのことです。ヘビは脱皮しながら成長するため、「生命」や「再生」の象徴とされています。現在でも全国各地でヘビを崇める風習が残っており、ヘビは金運にも恵まれるという言い伝えがあります。

また、「巳」を「実」という字と関連させて「実を結ぶ年」とも言われるそうです。

巳(蛇)の言い伝え

蛇というと、音もなくスルスルと這い回っているような怖いイメージがありますよね。

実際、日本で最古といわれる古事記では、やまたのおろちとしてスサノオノミコトに退治されています。

旧約聖書でも、エデンの園でアダムとイブに禁断の果実を食べようそそのかした悪者として登場したのは蛇でした。

そんな悪の象徴とされる蛇も、一方では、白蛇が日本各地で天候神や豊穡神として古くから信仰されているなど、良い象徴と捉えられることもあります。

哲学者ニーチェの「脱皮できない蛇は死ぬ」という名言もあるように、脱皮する特性から、蛇は、新しい生命が宿る「復活・再生」や不老長寿の象徴など縁起のよい動物ともいわれています。

とぐろを巻いていることから執念深いとのイメージを持たれていますが、中国の伝説では、「蛇を救った王の夢に現れて財宝を捧げる」など、受けた恩を必ず返す動物としての言い伝えもあるようです。

日本でも、「蛇の恩返し」(青姫明神)が大正時代の実話として語り継がれています。

2025 年も、縁起よく「巳(実)」を結ぶ年になると願いたいものです。



巳年の神社はここ！ 蛇がいっぱいいます

まだ初詣に行っていない方は是非お参りしてみても？

☆東京にある蛇窪神社

鎌倉時代、西暦 1323 年ごろ。古くから続いている神社で

す！主神 天照大御神

配祀 天児屋根命・応神天皇 有名な神様ですね！

3種の動物が見られる不思議な神社

蛇窪神社には本殿の他に「白蛇辨財天社」、「蛇窪龍神社」、「法密稲荷社」の 3 つの社があり、それぞれ、弁財天の遣い「白蛇」、「龍神」、お稲荷さんの遣い「きつね」の 3 種の動物が見られます。

「白蛇辨財天社」は「市杵島姫命」を祀っています。弁財天といえば、金運だけでなく、芸術や学問などの知を司る、七福神で唯一の女性の神様。また、白蛇は弁財天の遣いともいわれ、

「蛇が脱皮した後の皮を財布に入ると、金運がアップする」という話もあります。



「巳が龍(身が立つ)＝立身出世の願いを叶える」と地元をはじめ、全国各地から多くの参拝者が訪れます。

また、白蛇様は、『良い縁を授ける』といわれます。

そして、蛇は脱皮をすることから、再生、気力の復活を象徴します。そのため病氣平癒・心身清浄にもご利益があるそうです！

復活と再生を意味する生き物である蛇に由来して、新しい何かが始まる年といわれている。

日本三大白蛇聖地は

蛇窪神社(東京)岩國白蛇神社(山口)・老神温泉赤城神社(群馬)

他に関東では水と緑が豊かな境内には、かつて白蛇が住んでいたという伝説が残る「白蛇辨財天」(栃木県真岡市)もおすすめ



今年もバスをまるごと抗ウイルス・抗菌対策で安心な観光バスをお客様ご提供します

中山観光自動車は年末(12月29日~31日)の4日間にキノシールドの抗菌施工を行いました。お客様に安心して乗車して頂くため、また乗務員の健康を守るため、4年目の施工となりました。今年もより一層の安心・安全運行に努めてまいります。



中山観光自動車・年末の様子

**雪道走行研修
北志賀方面**

2024年12月24日



ともの会・乗務員親睦旅行



2024年12月19日~20日
母畑 八幡屋1泊



**今年も
どうぞ宜しくお願いします**

中山観光自動車株式会社
NAKAYAMA KANKO